アジア内分泌外科学会の報告

3月5日〜7日にオーストラリア、メルボルンにて第17回アジア内分泌外科学会が開催されました。オーストラリアでは広範囲の山火事があり、また最近の新型コロナウイルス感染症の流行の問題もありましたが、予定どおり開催されました。残念ながら中国、韓国、シンガポールからは参加予定者が全員キャンセルとなり、日本からも参加できたのは予定のほぼ1/3でした。しかし、Congress PresidentのJulie Miller先生の尽力により、アメリカから6名、カナダとスペインからそれぞれ1名と多数の世界的に高名な内分泌外科医が招待されており、またアジアオセアニア地域からも24名が特別講演やシンポジウムを担当して、参加者数は300人以上となり、学会としては非常に活発でありかつ学術的にレベルが高い学会になりました。

　Council meetingにおいて、次期Congress Presidentの選挙が行われ、大変喜ばしいことに東京女子医科大学の岡本高宏教授が圧倒的多数で選出されました。したがって、第18回アジア内分泌外科学会は2022年に東京で開催されることになりました。宮内はChairmanを2期8年間務めましたが、次期ChairmanとしてHisham Abdullah教授(マレーシア)を推薦し、満場一致で承認されました。宮内がChairmanとなったときに本学会創設者である藤本吉秀先生の功績を讃えるため優秀論文賞Fujimoto Prizeを本学会の正式の賞として作りました。その際、日本内分泌外科学会会員の有志の先生方から寄付を頂き、藤本賞基金としました。以来、1位受賞者に500米ドル、2位受賞者に300ドル、3位受賞者に100ドルを償金として授与してきました。この基金の世話人である日本内分泌外科学会理事長鈴木眞一先生、同理事杉谷巌先生と相談し、「この学会終了時点での残金約4000米ドルをアジア内分泌外科学会に寄付し、今後は学会としてこの賞を継続ように希望する」ことをCouncil meetingに図ったところ、全員一致で承認されました。近日、残金をアジア内分泌外科学会事務局の口座に振り込ませて頂きます。ご寄付を頂いた先生方に感謝してご報告申し上げます。なお、今回、日本からの2名もFujimoto Prizeの候補者に挙がっていましたが、残念ながら両名ともコロナウイルス感染症のため参加できず、一位はインドのChanthar先生、二位はオーストラリアのPapachristos先生、三位は台湾のTsai先生となりました。

　次回のCongress Presidentに選出された岡本先生も新Chairman Hisham先生もこの感染症流行のため出席できませんでした。しかし、閉会式において岡本先生から送られてきたVideo messageが放映されたのは大変良かったと存じます。

　以上、日本内分泌外科学会の会員の皆様にご報告するとともに、2022年のアジア内分泌外科学会が盛会となるようにご協力をお願い申し上げます。

 Asian Association of Endocrine Surgeons

 Immediate-past Chairman 宮内　昭

写真1.　左より、次期Congress President岡本先生の代理として学会シンボルフラッグとPresidential medalを引き継いだ杉谷先生、新Chairman Hisham先生の代理としてChairman medalを引き継いだSecretary TreasurerのImi Sairi先生、今回会長のMiller先生、Chairmanの任期を終えた宮内。

写真2.　多数の特別講演者、招待講演者。メルボルンを流れるYarra Riverの北岸にて、多数の高層ビルを背景に。